



No.3376

第3694回例会  
令和3年4月21日

# OBIHIRO ROTARY CLUB

## DISTRICT 2500

方針「ONE TEAM」

会長 長澤 秀行

2020-21年度国際ロータリーのテーマ ロータリーは機会の扉を開く

## ■会長報告

長澤 秀行 会長



明日4月22日はアースデイ(地球の日)です。地球環境のことを考えて行動する日として、今から51年前の1970年に、アメリカのネルソン上院議員によって提唱されました。1970年から開始された東京銀座の歩行者天国(ホコテン)は、アースデイにちなんで考案されたとされています。ちなみに、銀座でホコテンがスタートする1年前、1969年に旭川市平和通り(旧師団通り)を買物公園とするホコテンの社会実験が始まり、1972年には本格実施されています。日本で本格的にアースデイのイベントが開始されたのは1990年からのようです。例年4月22日には、世界中で環境イベントが開催されますが、昨年に引き続き、今年もコロナ禍により自粛となりそうです。

「世界でよいことをしよう。」のもとに活動を行っている国際ロータリーの重点分野に、今年の7月から「環境」が加えられます。他の重点分野と同様に、地球規模の取り組みがなければ解決できない課題です。

先週、高原淳副会長から、アーサー・フレデリック・シェルドンに関する卓話がありました。ポール・ハリスを助けて、ロータリークラブの基礎を築いたロータリアン3賢人の一人であり、「親睦と相互扶助」から始まったロータリー活動に、「職業奉仕」の考え方を導入した人物でもあります。現在のロータリーの2つの公式標語は、「超我の奉仕」と「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」ですが、後者の考え方を提案したのが、シェルドンでした。彼の「ビジネスは、すべての社会に尽くす手段でなければならない。」「職業は、奉仕する手段である。」という考え方が、今日のSDGsの取り組みにつながっています。

本日のプログラムで紹介される近江正隆さんの取り組みも、今日のテーマであるSDGs、あるいはシェルドンの「最もよく奉仕する者」を実践していると思います。

## ■プログラム

(プログラム委員会)

「持続可能なまちづくりについて」

一般社団法人十勝うらほろ楽舎 代表理事 近江 正隆 様



## 持続可能なまちづくりについて

一般社団法人 十勝うらほろ楽舎

代表理事 近江 正隆



近江 正隆(おうみまさたか)

- 1970年 東京目黒生まれ。
- 1989年 北海道に単身移住。
- 1991年～2008年 漁業に従事。
- 1998年～2008年 水産加工とネット販売。
- 2008年 企画会社(株)ノースプロダクション設立。
- 2008年 うらほろスタイル推進地協賛会設立。
- 2012年 NPO法人食の絆を育む会設立。
- 2020年 一般社団法人 十勝うらほろ楽舎設立。

<特技>  
すぐに動けること  
すぐに忘れること  
でもまたすぐに動けること

## 持続可能な地域とは？

「持続」とは、「次」につながるということ。  
「次」は「子どもや若者たち」(次世代人材)が主役の世界。  
「地域」に「次世代人材」が関わり続けてくれる。  
そこが「持続可能な地域づくり」の重要ポイント。  
地域に「関わりたい(楽しみたい)」「住みたい(戻りたい)」と、子どもたち自らが思えるような地域となるためには、大人たちが地域でワクワクすること、楽しんでいる姿を次世代に見せることが大切。  
そして、次世代人材がその姿を見て、大人たちや大自然・様々な経験から多くのことを吸収しながら、自らで未来を切り拓く力を身につけ、さらに次の世代に社会を引き継ぐと主体的に思える。そんな次世代人材を育てる地域が持続可能な地域になる。

## 浦幌町がワクワクする理由

若者たちが元気！若者が続々集まってきている！



## 浦幌町がワクワクする理由

"地"を愛する企業人が集まってきている！



副業ボランティアで、企業人の皆さんが浦幌に関わりを持ってくれたのは、ちょうど4年前。

浦幌町が抱える地域の課題解決と一緒にチャレンジしてくれた「浦幌ワークキャンプ」がご縁の始まりでした。

そこでの関わりで学んだ1番のことであり、地域に最も必要なことだと思うことは、

「地域でワクワクと活動する大人の姿」

浦幌町に訪れてくれている「福」業企業人の皆さんと令和2年4月に、新しい組織を立ち上げました。

その組織が「一般社団法人 十勝うらほろ楽舎」です。

そして、この「楽舎」のミッションは、

みんなでワクワクしながら

新しい「地方創生」モデルで

持続可能な地域をつくる



一緒に悩み、一緒に走る。

十勝うらほろ楽舎。



一般社団法人 十勝うらほろ楽舎

## 十勝うらほろ楽舎のミッション

みんなでワクワクしながら

新しい「地方創生」モデルで

持続可能な地域をつくる

## 十勝うらほろ創生キャンプ(TUS)

みんなで作ろうかながら、新しい地方創生モデルで、持続可能な地域をつくる

### 新しい地方創生モデル5つのイメージ

- ① みんなで地域課題をワウク解決 (次世代に見せる大人の背中・姿)
- ② 「祖業」で企業人が地方創生 (関係者キャンプで地方に再関与される)
- ③ 親と長と短大生がでる繋がる (開かれた口が広がることと協力)
- ④ 企業・自治体・NPO・市民・学生・農業者・観光客のまちづくり(参画)
- ⑤ 「町(公)の力」と「民(私)の力」の新たな協働 (乗客が乗るものづくりに参画)

## 「OECD」が定義する「生き延びる力」

- ①新しい価値を創造する力 (Creative new value)  
新しい価値・価値・サービス・新しい価値モデルを他者と協力して作り出す力。適応性、創造性、好奇心、他者と協定する力
- ②異なる局面への調停力 (Reconciling tensions and dilemmas)  
平等と他者、個人と地域・社会、変革と安定の持続性など様々な競合する需要間やトレードオフを克服し、お互いの利益を最大化する力
- ③責任と責任力 (Taking responsibility)  
自らの行動の将来の結果を考慮する力、自分の仕事の成果について責任を負って説明できる力、自己管理能力、社会的能力、問題解決力、課題設定能力、リーダー能力など

4月28日(水)「会員増強は論語と算盤にあり」 (会員増強委員会)

